

千葉市砂子遺跡（第4次）

—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2024

公益財団法人 千葉市教育振興財団

例言

- 1 本書は、千葉市稲毛区作草部町626-1・7に所在する砂子遺跡の宅地造成に伴う発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業は、黒川久喜子の委託を受け、千葉市教育委員会生涯学習部文化財課の指導のもと公益財団法人千葉市教育振興財団が実施したものである。
- 3 発掘調査の期間・面積・担当者は下記のとおりである。
 - ・確認調査
期間：2023（令和5）年4月12日～2023（令和5）年4月24日 面積：138 m²/1,408.74 m² 担当者：松田光太郎
 - ・本調査
期間：2023（令和5）年7月24日～2023（令和5）年9月13日 面積：320 m² 担当者：小林嵩（公益財団法人千葉市教育振興財団）
- 4 整理作業および本書の製作・編集は、吉村瑠子・新田浩美・佐藤ひかる・萩原実保の協力を得て、小林が担当して行った。
- 5 整理期間は、2023（令和5年）年9月14日～2024（令和6年）年2月29日にかけて、断続的に行った。
- 6 遺構・遺物の撮影は小林が行った。
- 7 本書の執筆は、第1章は松田光太郎（千葉市埋蔵文化財調査センター）が行い、他は小林が行った。
- 8 出土資料・調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 9 出土鉄製品の保存処理については株式会社イビソクに依頼した。
- 10 発掘調査から報告書発行まで、下記の諸機関の御指導・御協力を賜った。
千葉市教育委員会生涯学習部文化財課・黒川久喜子・月ノ不動産株式会社

凡例

- 1 本書に掲載した遺構図等の方位は、公共座標の北を基準としている。
- 2 土層及び遺物の色を記号で示してある場合は、農林水産省監修「新版 標準土色帖」による。
- 3 本文中の欄間の縮尺は原則として以下のとおりである。
 - 遺構実測図：1/40・1/60
 - 遺物実測図：土器 1/3・1/4 土製品・石製品・鉄製品：1/3
- 4 遺構・遺物の図面はAdobe Systems 社製 Adobe Illustrator で編集作業を行った。
- 5 遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影し、Adobe Systems 社製 Adobe Photoshop で編集作業を行った。
- 6 本文中の遺構の略称は以下のとおりである。
堅穴建物跡：S1、柱穴：P

目次

例言・凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 砂子遺跡の概要	1
1 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
2 過去の調査歴	1
3 調査の方法	3
第3章 検出した遺構と遺物	4
1 奈良時代	4
2 時期不明	14
第4章 まとめ	14
写真図版抄録	

表目次

第1表 出土遺物集計表	16	第2表 出土遺物観察表	17
-------------	----	-------------	----

挿図目次

第1図	砂子遺跡と周辺遺跡の調査歴	2	第2図	確認調査範囲と本調査範囲	3
第3図	遺構配置図	4	第4図	第1号竪穴建物跡(1)	6
第5図	第1号竪穴建物跡(2)	7	第6図	第1号竪穴建物跡(3)	8
第7図	第1号竪穴建物跡(4)	9	第8図	第2号竪穴建物跡(1)	9
第9図	第2号竪穴建物跡(2)	10	第10図	第2号竪穴建物跡(3)	11
第11図	第3号竪穴建物跡(1)	11	第12図	第3号竪穴建物跡(2)	12
第13図	第3号竪穴建物跡(3)	13	第14図	第1号柱穴・時期不明	13
第15図	調査中の新築遺跡	14			

写真図版目次

図版1	調査区遠景(北から)、調査区全景
図版2	調査前現況(西から)、S11全景(南西から)、S11遺物出土状況(北東から)、S11遺物出土状況(北西から)、S12全景(南から)、S12遺物出土状況(東から)、S12遺物出土状況(東から)、S12遺物出土状況(南西から)
図版3	S13全景、S13カマド全景(南から)、S13遺物出土状況(南西から)、P1全景(西から)、調査風景1~3、調査終了(南から)
図版4	第1号竪穴建物跡
図版5	第2・3号竪穴建物跡
図版6	第3号竪穴建物跡、時期不明

第1章 調査に至る経緯

令和5年2月20日付けで清宮圭介氏から、宅地造成を計画している千葉市稲毛区作草町626-1他（面積1,408.74㎡）について、「埋蔵文化財発掘の届出について」が提出され、令和5年3月15日に試掘を実施した結果、土師器や住居跡が検出された。試掘結果を清宮氏に伝え協議した結果、発掘調査が避けられないことが判明したため、3月28日、4千教埋セ第514号にて、発掘調査を実施するように通知した。また試掘で遺構が検出された場所が、砂子遺跡（稲毛区№1）と新畑遺跡（同№64）の範囲よりも外側にあったため、令和5年4月5日、5千教埋セ第148号にて、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更を行った。その後、4月10日、清宮氏より発掘調査（確認調査）の依頼文が提出され、千葉市教育委員会は、同日付け5千教埋セ第2号にて、千葉県教育委員会教育長宛て発掘調査の報告を行った。そして4月12日～4月24日の日程で千葉市埋蔵文化財調査センターが確認調査を実施した。確認調査では奈良・平安時代の住居跡5軒、柱穴3基が確認され、4月26日付け5千教埋セ第63号にて、事業面積1,408.74㎡のうち、砂子遺跡・新畑遺跡の620㎡を本調査対象範囲として、継続協議が必要な旨を清宮氏に通知した。再度協議の結果、埋設管設置や住宅用の杭打設等により、保護層の確保が困難な砂子遺跡の320㎡に限って、記録保存のための本調査を実施することになった。その後、(公財)千葉市教育振興財団が本調査を実施することとなり、(公財)千葉市教育振興財団は、6月22日付け、5財千教振事第17号にて、千葉市教育委員会経由、千葉県教育委員会教育長宛て発掘調査の届出を提出した。そして千葉県教育委員会より、7月21日付け、(公財)千葉市教育振興財団理事長宛てに、「埋蔵文化財の発掘調査について（通知）」(教文第151号)が提出された。

第2章 砂子遺跡の概要

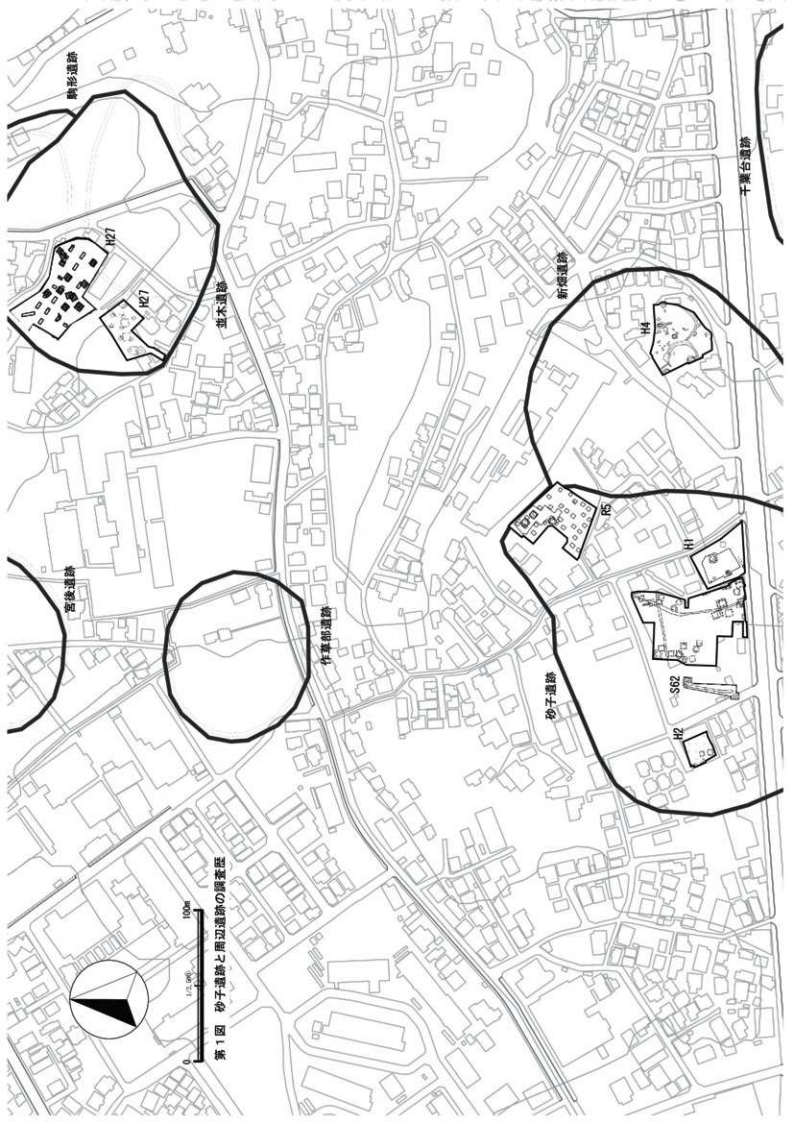
1 遺跡の立地と周辺の遺跡

砂子遺跡は、市域の中央部に源を発し南流して都川に注ぐ、葎川中流域右岸の台地上に位置し、標高は約20～21mを測る。

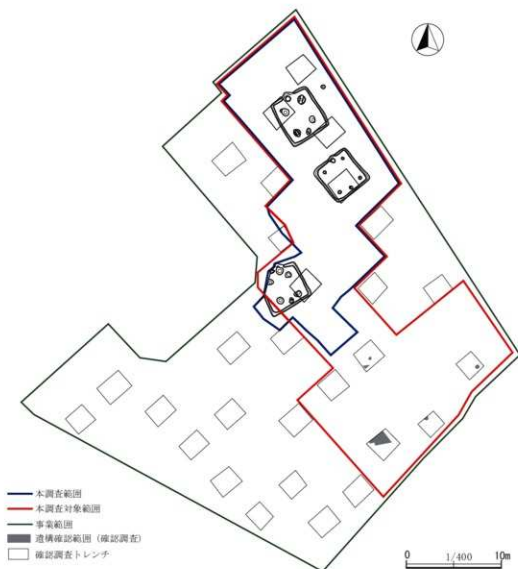
砂子遺跡周辺には数多くの遺跡が存在し、過去にも調査が行われてきた。砂子遺跡周辺は断続的な土地利用が認められ、隣接する新畑遺跡では縄文時代早期後半～前期の炉穴・陥穴、中期後葉の小規模集落が検出され、駒形遺跡では弥生中期後葉の小規模集落が検出されている。土地利用が活発になるのは古墳時代後期以降であり、古墳時代後期には駒形遺跡で集落が検出され、新畑遺跡では円墳と考えられる古墳が2基検出されている。奈良時代以降になると集落は大規模化し、駒形遺跡のほか本調査は実施されていないが並木遺跡や官後遺跡で奈良～平安時代にかけての集落が検出されている。

2 過去の調査歴

砂子遺跡の発掘調査は昭和62年度、平成元年度・2年度に実施されており、今回の調査が4回目となる。過去の調査では古墳時代以前の遺構・遺物は報告されておらず、土地利用が認められるのは奈良時代以降である。奈良時代～平安時代にかけての堅穴建物跡や掘立柱建物跡がいずれの調査でも



第1図 砂子遺跡と周辺遺跡の調査区



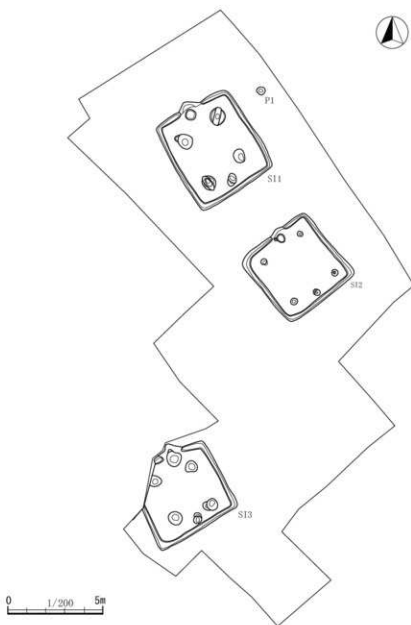
第2図 確認調査範囲と本調査範囲

検出され、遺跡内に広く展開することが分かっている。その後の土地利用の痕跡は希薄であり、近世以降と考えられる溝状遺構が検出されている。

なお、昭和62年度の調査を第1次調査、平成元年度を第2次調査、平成2年度を第3次調査、本報告の令和5年度調査を第4次調査と呼称する。遺構番号は過去の調査からの通し番号とはしていない。

3 調査の方法

調査区内に基準杭を設定し、遺構平面図作成と遺物の取り上げは、この杭を基準として行った。調査区内は畑地として利用されており、耕作土下はすぐにソフトロームとなる。



第3図 遺構配置図

第3章 検出した遺構と遺物

1 奈良時代（第1・2表・第4～13図）

（1）概要

奈良時代の竪穴建物跡が3軒、柱穴が1基検出された。遺物の総数は土器4951点、土製品23点、石製品6点、鉄製品26点、焼成粘土塊100点である。詳細は集計表（第1表）に記載した。

（2）竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第1・2表、第4～7図）

重複関係:なし。平面形態:方形。規模:長軸 5.50m、短軸 4.65m、深さ 0.65m。構造:底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。ハードルームを床面にしており、全体的に硬化している。また、カマドが北壁側から検出されソデは残存しているが天井部は残存していなかった。廃棄時に破壊したものと考えられ、周囲に山砂が流出していた。柱穴が5基検出され、掘方の形状から廃棄時に抜き取られたと考えられる。覆土:柱穴覆土はロームブロックが主体で、人為的な埋土である。覆土下層は山砂やローム粒が多量に混じることや北西壁際の床面近くではロームブロックが多量に含まれることから、人為的な埋土と考えられる。上層は自然堆積の可能性がある。遺物:多量の遺物が出土したがほとんどが細片で占められ、接合する遺物は少なかった。特に南東側と北西側からの出土が多く、人為的な埋土と考えられる2層からの出土が多いことから、住居廃棄時に土器類も廃棄したと考えられる。土器以外の遺物としては紡錘車や砥石などの石製品、鎌や刀子などの鉄製品が出土している。なお、カマド内の焼土を持ち帰り水洗選別を実施したが、炭化種子などの抽出物はなかった。時期:出土した土師器杯や須恵器杯身の形態的な特徴から奈良時代後半と考えられる。

第2号竪穴建物跡(第1・2表、第8～10図)

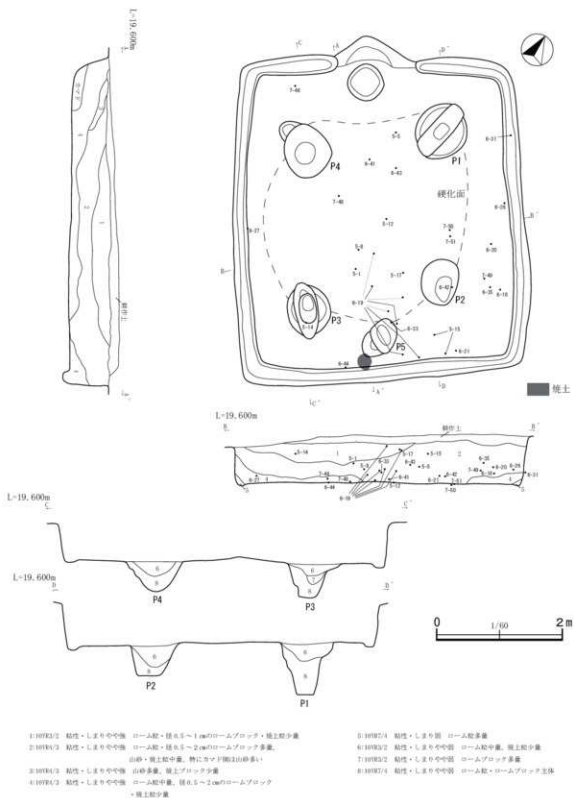
重複関係:なし。平面形態:方形。規模:長軸 4.52m、短軸 4.35m、深さ 0.35m。構造:底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。ハードルームを床面にしており、全体的に硬化している。また、カマドが北壁側から検出されたが、ソデが一部残るのみであった。柱穴が5基検出され、抜き取られた痕跡はない。覆土:柱穴覆土はロームブロックが主体で、人為的である。覆土は均質的でロームブロックが多量に含まれることから人為的な埋土と考えられる。遺物:覆土からの遺物の出土は少なく、ほとんどが細片で占められている。カマド付近からまとまった遺物の出土があり、カマド前からは支脚が立った状態で出土した。カマド西側からも甕が破損した状態で置かれていたが(第9図7、第10図6)、口縁部が様々な方向を向いていること、破損した状態で南壁側からも出土していることから、置かれた後に破損したのではなく破損した状態で置かれたものと考えられる。土器以外の遺物としては土玉と磨石類が出土している。なお、カマド内の焼土を持ち帰り水洗選別を実施したが、炭化種子などの抽出物はなかった。時期:出土した土師器杯や須恵器杯身の形態的な特徴から奈良時代後半と考えられる。

第3号竪穴建物跡(第1・2表、第11～13図)

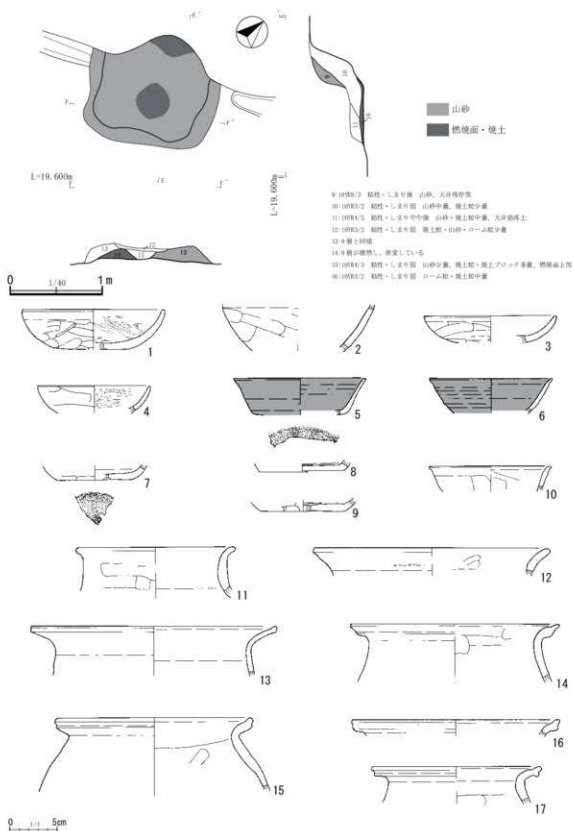
重複関係:なし。一部調査区外。平面形態:方形。規模:長軸 4.80m、短軸 4.65m、深さ 0.55m。構造:底面は平坦であり、壁は垂直気味に立ち上がる。ハードルームを床面にしており、北東の壁際を除き硬化している。また、カマドが北壁側から検出されたが、ソデが一部残るのみであった。柱穴が5基検出され、抜き取られた痕跡はない。覆土:住居・柱穴覆土ともに均質的でロームブロックが多量に含まれることから人為的な埋土と考えられる。部分的に床面付近から多量のロームブロックが検出された。遺物:覆土からの遺物の出土は少なく、ほとんどが細片で占められカマド付近に偏る。埋め戻す際に廃棄したものと考えられる。土器以外の遺物としては砥石などの石製品と刀子などの鉄製品が出土している。なお、カマド内の焼土を持ち帰り水洗選別を実施したが、炭化種子などの抽出物はなかった。時期:出土した土師器杯や須恵器杯身の形態的な特徴から奈良時代後半と考えられる。

(3) 柱穴

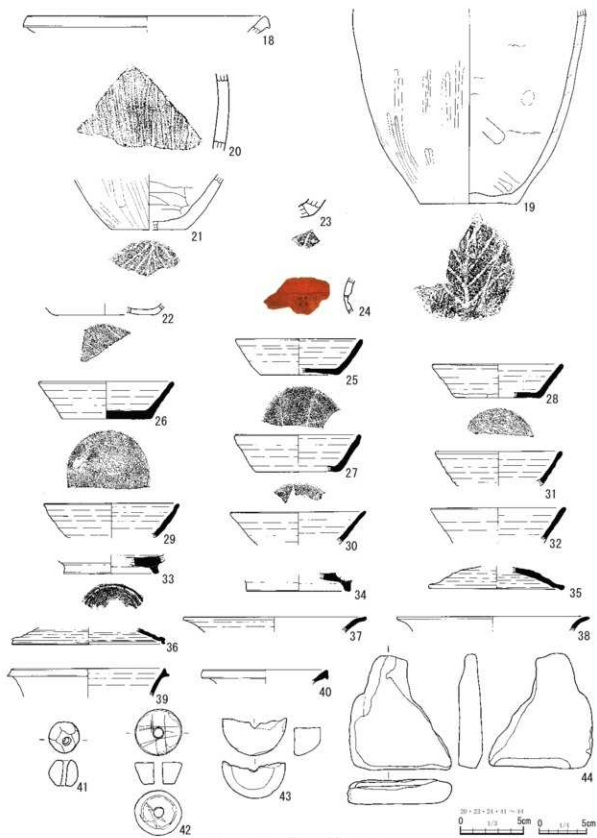
第1号柱穴(第1表、第14図)



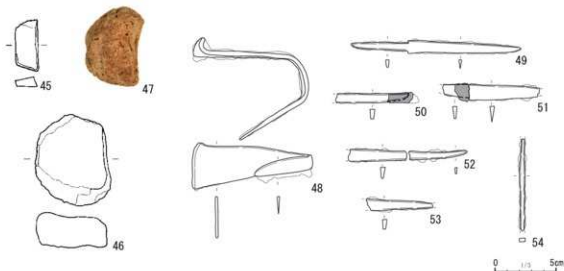
第4図 第1号竖穴建物跡(1)



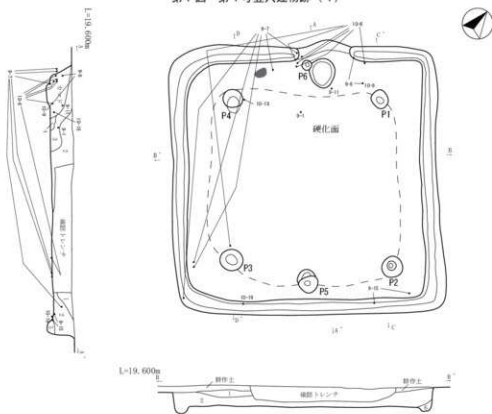
第5図 第1号竪穴建物跡(2)



第6図 第1号竖穴建物跡(3)



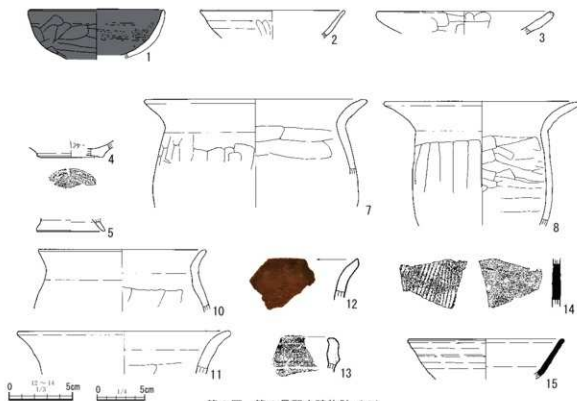
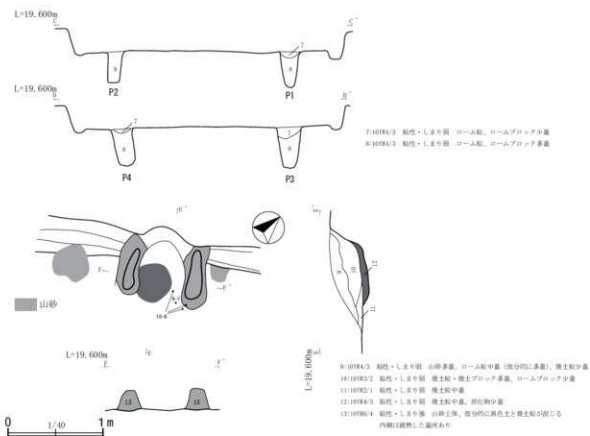
第7図 第1号竪穴建物跡(4)



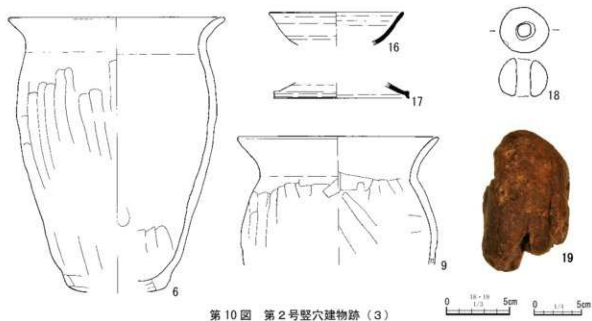
- 1: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 コー-A.粘中量, コームロップ少量
- 2: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 コー-A.粘少量, コームロップ少量
- 3: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 コー-A.粘・山砂中量, 焼土粘少量
- 4: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 焼土粘・灰化物中量
- 5: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 コー-A.粘・焼土粘少量
- 6: 100K3.2 粘土・L.まり中々硬 コー-A.粘中量



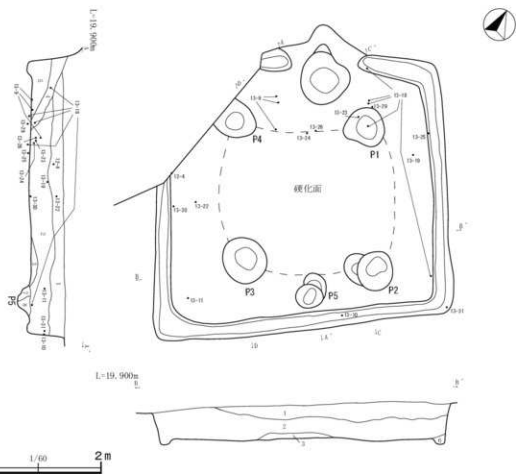
第8図 第2号竪穴建物跡(1)



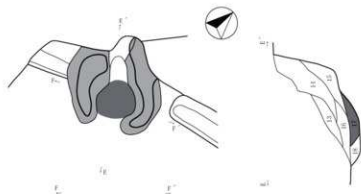
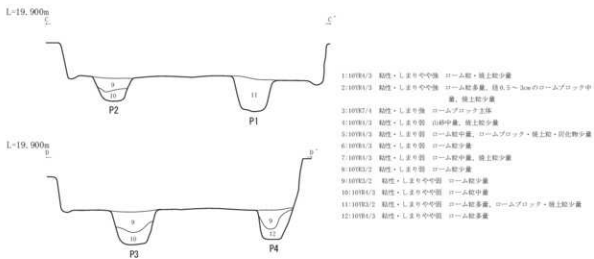
第9図 第2号竪穴建物跡(2)



第10图 第2号竖穴建物跡(3)

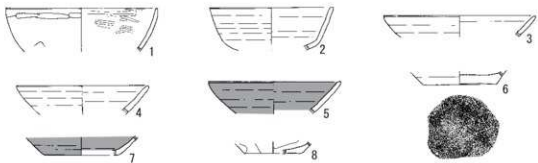


第11图 第3号竖穴建物跡(1)

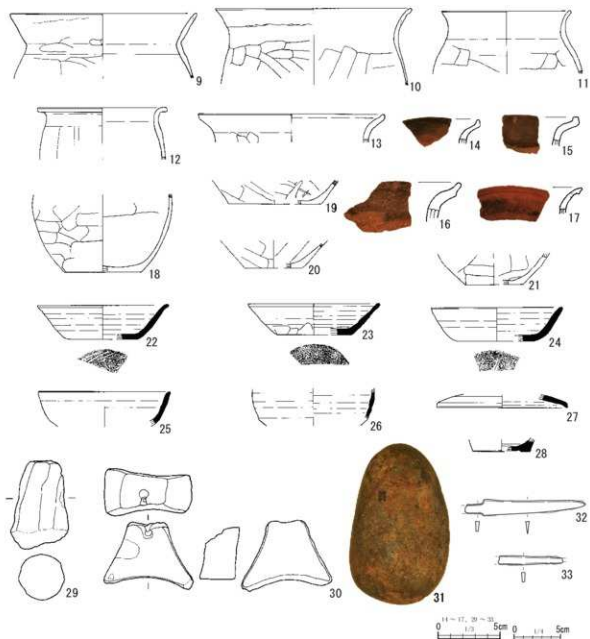


- 19: 1019B/4 黏性・しまり強 山砂主体、褐色土・焼土粒少量
20: 1019C/2 黏性・しまり弱 ローム殻少量、焼土粒中層
21: 1019C/2 黏性・しまり弱 ローム殻・焼土粒少量

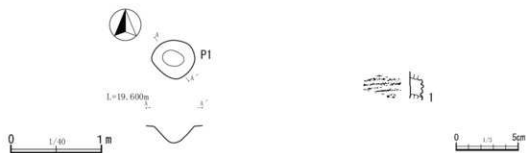
- 13: 1019A/3 黏性・しまりや中強 ローム殻・焼土粒・山砂少量
14: 1019A/3 黏性・しまり強 山砂少量、ローム殻・焼土粒ブロック少量
15: 1019A/2 黏性・しまり中弱 焼土粒少量
16: 1019A/2 黏性・しまりや中弱 焼土粒少量、焼土ブロック中層
17: 1019A/2 黏性・しまり中弱 焼土粒中層、焼土ブロック少量、焼後面
18: 1019A/3 黏性・しまりや中強 ローム殻・ロームブロック中層、山砂少量



第12図 第3号竖穴建物跡(2)



第13图 第3号竖穴建物跡(3)



第14图 第1号柱穴・時期不明

重複関係：なし。平面形態：円形。規模：長軸0.45m、短軸0.40m、深さ0.25m。構造：底面は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土：自然堆積と考えられる。遺物：覆土から土師器が僅かに出土した。時期：出土した土師器から概ね奈良～平安時代と考えられる。

(4) 遺構外出土遺物 (第1表)

調査区内及び各遺構の覆土から奈良時代の土器や鉄製品が出土している。図示はしなかったが、総数は集計表(第1表)に記載した。

2 時期不明 (第1・2表、第14図)

(1) 概要

時期不明の土器が1点出土した。調査区内からは近代以降の陶磁器類も出土しているため、近代以降の可能性もあるが、特徴的なため図示した。

第4章 まとめ

1 奈良時代

奈良時代後半の竪穴建物跡3軒と柱穴が1基検出された。過去の砂子遺跡の本調査でも奈良～平安時代にかけての集落域が調査され、奈良時代の竪穴建物跡6軒、平安時代の竪穴建物跡7軒、奈良～平安時代の竪穴建物跡4軒・掘立柱建物跡19軒が検出されている。今回の調査で検出された遺構も一連の集落跡と考えられ、奈良～平安時代にかけて継続した集落と考えられる。加えて、古墳時代後期以降の大規模集落が検出された駒形遺跡や、確認調査で奈良～平安時代にかけての集落域が検出された並木遺跡・宮後遺跡の調査成果を参照すると、霞川右岸の台地上には広範囲にわたって奈良～平安時代にかけての集落域が広がる可能性が高くなった。平安時代に編集された『和名抄』には「千葉郡三枝郷(ちばくんさくさごう)」という地名が確認できるが、砂子遺跡周辺の集落域はこれと対応する集落の可能性が高い。今回の調査では砂子遺跡周辺は奈良時代～平安時代にかけての土地利用が主体であり、それ以外の時期の土地利用は希薄であることが明確になった。



左：古墳の墳丘が削平され、更にその上に分厚く砂層が堆積していることが分かる
右：調査風景(中央は大塚初龍氏)

第15図 調査中の新堀遺跡

本調査で検出されたのは奈良時代の集落域のみであり、前後の土地利用が極めて希薄なことが明らかになったが、周辺遺跡と近代以降の状況についても少し触れておきたい。今回の調査区内からは近代以降と考えられる陶磁器類や芋穴などが検出されており、近代以降は畑地としての土地利用が想定できる。

また、近接する新畑遺跡は正式な報告書は刊行されていないが、周辺の土地利用を考えるうえで重要な成果が得られているので、簡単に触れたい(第15図)。新畑遺跡は今回の調査区と直線距離で約100mしか離れていないが、地形や土層の堆積状況が大きく異なっている。調査当時の写真を確認すると、表土下約3m近くが風性堆積したと思われる砂層となっている。そしてその下に褐色土がやや堆積し、その下はソフトロームという層序になっている。また、円墳周溝が調査されたが、調査当時の写真を見ると盛土はすでに削平されていることが分かる。このような新畑遺跡の状況から、時期の特定は難しいが砂子遺跡周辺では古墳時代後期以降に古墳の墳丘を削るような土地変化がおこなわれていることが分かる。加えて、標高が低い場所など、地点によっては砂層が厚く堆積する環境であったことが明らかになった。

参考文献

- 青沼道文 1994「新畑遺跡」『財団法人千葉市文化財調査協会年報6—平成4年度—』財団法人千葉市文化財調査協会
倉田義広 2016『埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書—平成27年度—』千葉市埋蔵文化財調査センター
田中裕 2002「第2節2. 土器編年」『千葉市鷲谷津遺跡—都市基盤整備公団千葉寺地区埋蔵文化財発掘調査報告書III—』『千葉県文化財センター調査報告』第422集 都市基盤整備公団千葉地域支社・財団法人千葉県文化財センター pp.407-419
対馬郁夫・谷島一馬・浅利幸一編 1978『千葉市作草部町 駒形遺跡発掘調査報告書』千葉県文化財保護協会
長原亘 2018『埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書—平成29年度—』千葉市埋蔵文化財調査センター
飛田正美 1988『千葉市砂子遺跡』黒川流・財団法人千葉市文化財調査協会
飛田正美 1990『砂子遺跡(C区)』財団法人千葉市文化財調査協会
村田二郎太 1991『砂子遺跡(D区)』財団法人千葉市文化財調査協会
横田正美編 1990『埋蔵文化財調査(市内遺跡群)報告書—平成元年度—』千葉市教育委員会

第1表 出土遺物集計表

遺構名		總物路						柱穴		調査区	総計		
		1		2		3		1					
残存		個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片		
古代	土師器	坏	107	1	19		68				4	199	
		高台付坏			3							3	3
		鉢	1				1						2
		甕	67	1	14		41				5	128	
		壺・瓶	2557		459		1362		3		79	4451	
	須恵器	坏身	87		8		36						131
		高台付坏	2										2
		坏蓋	6		1		1				4	12	
		鉢	2										2
		壺・瓶類	4		1		3						8
	土製品	甕	4		4		3				2	13	
		支脚	3		5	1	1						10
		土王	1		1								2
		紡錘車	2										2
		砥石	2			1							3
	石製品	磨石類	1										1
		鎌	1							1			2
		刀子	9		1				3				13
		鉄鏝	2		1					2			5
		鉄滓	1		3		1				1		6
焼成粘土塊		74		7		19						100	
近代	土器			1							2	3	
	陶磁器類	43		18		8					20	89	
	土製品	瓦	2				1				6	9	
		泥函子	1							1		2	
	鍍金									1		1	
おはじき									1		1		
軽石			19			39						58	
鐵			211	32		71				45		359	
時期不明土器			274		32		103				19	428	
總計		94	3389	47	556	132	1628	3	3	52	141	6045	

第2表 出土遺物観察表
第1号壙穴建物跡

計測値は上から口径・器高・直径 ○：復原線 □：残存線

1	土師器 杯	(15.0) 4.2 -	1/4残存。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	赤褐色粒微量、石英少量、白色粒中量。	外面：7.5YR6/4 内面：5YR5/6	良好
2	土師器 杯	- (4.9) -	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ナデ。	緑・石英微量、白色粒少量。	外面：2.5YR5/8 内面：5YR4/6	良好
3	土師器 杯	(14.0) (2.8) -	口縁部へ体部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	石英微量、白色粒少量。	外面：10YR3/2 内面：10YR3/3	良好
4	土師器 杯	(12.0) (2.9) -	口縁部片。内面ヘラミガキ。口縁部外面ヨコナデ後ミガキ。外面ヘラケズリ後ミガキ。	緑・石英微量、白色粒少量。	外面：7.5YR6/4 内面：7.5YR6/4	良好
5	土師器 杯	(14.0) (3.9) -	1/3残存。内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。内外面赤彩。	緑微量、石英少量、白色粒中量。	外面：10YR3/1 内面：10YR4/6	良好
6	土師器 杯	(13.0) (3.8) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。内外面赤彩。	石英微量、緑・白色粒少量。	外面：10YR3/6 内面：10YR3/6	良好
7	土師器 杯	- (1.6) (8.0)	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：7.5YR5/6	良好
8	土師器 杯	- (1.2) (9.0)	底部片。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。内外面赤彩。	緑微量、白色粒中量。	外面：2.5YR4/6 内面：7.5YR5/4	良好
9	土師器 杯	- (1.4) (9.0)	底部1/2残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ	石英微量、白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR5/6	良好
10	土師器 鉢	(13.0) (2.7) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。	緑微量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR4/4 内面：7.5YR5/4	良好
11	土師器 甕	(17.0) (4.3) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。外面一部ヘラケズリ。	石英・白色粒中量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
12	土師器 甕	(25.0) (2.9) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。外面一部輪積痕残る。外面僅存者。	石英微量、白色粒中量。	外面：10YR6/3 内面：7.5YR7/6	良好
13	土師器 甕	(26.0) (5.2) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。	緑微量、石英・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：7.5YR6/6	良好
14	土師器 甕	(22.0) (6.1) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。外面僅存者。	緑・石英中量。	外面：10YR2/1 内面：10YR5/4	良好
15	土師器 甕	(21.0) (8.2) -	口縁部1/5残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。内面輪積痕残る。	雲母中量、緑多量。	外面：10YR6/3 内面：10YR6/4	良好
16	土師器 甕	(22.0) (1.8) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。外面一部輪積痕残る。外面僅存者。	雲母中量、緑多量。	外面：10YR5/2 内面：10YR6/4	良好
17	土師器 甕	(18.0) (3.9) -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ナデ。	雲母中量、緑多量。	外面：10YR6/4 内面：10YR7/4	良好
18	土師器 甕	(25.0) (1.7) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	緑少量、雲母中量。	外面：8Y/1 内面：7.5Y4/1	良好
19	土師器 甕	- (20.5) 10.4	胴部下半～底部1/4残存。内面ナデ。輪積痕残る。外面ナデ。下半縦位のヘラミガキ。底部木葉痕状の刻み。	石英中量、緑多量。	外面：2.5Y4/1 内面：10YR7/4	良好
20	土師器 甕	- (5.4) -	胴部片。内面ナデ。外面縦位のヘラミガキ。	石英少量、緑中量。	外面：10YR5/4 内面：2.5Y6/3	良好
21	土師器 甕	- (5.9) (8.0)	底部片。内面ヘラナデ。外面縦位のヘラミガキ。底部木葉痕状の刻み。	緑中量、石英多量。	外面：10YR4/2 内面：10YR5/4	良好
22	土師器 甕	(1.2) (11.0) -	底部片。内面ナデ。外面ヘラケズリ。底部木葉痕状の刻み。	石英微量、白色粒少量。	外面：2.5Y2/2 内面：2.5Y4/1	良好
23	土師器 甕	(0.8) -	底部片。内面剥落。外面ヘラケズリ。底部木葉痕。	赤褐色粒微量、石英・白色粒中量。	外面：7.5YR2/1 内面：7.5YR5/4	良好

24	土師器 壺	- <2.8>	胴部片。内面ナデ。外面ヨコナデ。4ヶ所の刺突が確認できる。	石英・白色粒少量。	外面：S35/6 内面：S35/6	良好
25	須恵器 坏身	(13.0) 3.8 (8.0)	1/3残存。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	縹・白色粒少量。	外面：7.516/1 内面：1015/1	良好
26	須恵器 坏身	(14.0) 3.9 9.2	1/3残存。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	白色粒微量。 縹中量。	外面：S16/1 内面：7.515/1	良好
27	須恵器 坏身	(13.0) 3.8 (8.8)	1/4残存。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	白色粒微量。 縹中量。	外面：S15/1 内面：7.515/1	良好
28	須恵器 坏身	(13.6) 3.5 (9.0)	1/4残存。内外面ロクロナデ。外面下端及び底部手持ちヘラケズリ。	縹・白色粒少量。 石英中量。	外面：2.516/2 内面：2.516/2	良好
29	須恵器 坏身	(14.0) <3.6>	口縁部片。内外面ロクロナデ。	精良。	外面：2.516/1 内面：2.517/2	良好
30	須恵器 坏身	(14.0) <3.5>	口縁部片。内外面ロクロナデ。	白色粒微量。 石英少量。	外面：S16/1 内面：S16/1	良好
31	須恵器 坏身	(14.0) <3.7>	口縁部片。内外面ロクロナデ。	縹微量。白色粒少量。	外面：S15/1 内面：S15/1	良好
32	須恵器 坏身	(13.0) <3.6>	口縁部片。内外面ロクロナデ。	縹微量。石英中量。	外面：S16/1 内面：S16/2	良好
33	須恵器 高台付坏	- <2.0> (10.0)	底部片。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	縹微量。石英多量。	外面：S17/1 内面：2.517/2	良好
34	須恵器 高台付坏	<1.9> (11.0)	底部片。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	縹微量。石英多量。	外面：2.517/2 内面：2.517/2	良好
35	須恵器 坏蓋	(14.0) <2.3>	口縁部片。内外面ロクロナデ。外面上端回転ヘラケズリ。	縹・石英中量。	外面：2.517/2 内面：2.517/1	良好
36	須恵器 坏蓋	(16.0) <1.2>	口縁部片。内外面ロクロナデ。	縹・白色粒少量。	外面：1015/1 内面：S16/1	良好
37	須恵器 鉢	(19.0) <1.6>	口縁部片。内外面ロクロナデ。内面に自然軸付着。	精良。	外面：2.514/1 内面：2.515/2	良好
38	須恵器 鉢	(20.0) <1.5>	口縁部片。内外面ロクロナデ。内面に自然軸付着。	精良。	外面：2.516/1 内面：2.516/1	良好
39	須恵器 蓋・瓶類	(16.0) <2.9>	口縁部片。内外面ロクロナデ。内外面自然軸付着。	精良。	外面：2.516/1 内面：2.516/1	良好
40	須恵器 蓋・瓶類	(13.0) <2.5>	口縁部片。内外面ロクロナデ。内面～口縁部外面縁軸付着。	精良。	外面：2.517/2 内面：2.517/3	良好
41	土製品 土玉	-	定形。長さ2.2cm、幅2.2cm、厚さ2.1cm、重量10.1g。ナデにより整形される。		2.516/3	良好
42	石製品 磁押車	-	定形。長さ3.4cm、幅3.4cm、厚さ1.7cm、重量34.6g。全体的によく研磨されるが部分的に剥落する箇所がある。また、上面に「井」状の刻線が確認できる。			
43	石製品 磁押車	-	1/2残存。長さ4.7cm、幅2.6cm、厚さ2.1cm、重量35.2g。全体的によく研磨される。被熱する。			
44	石製品 磁石	-	定形。長さ9.3cm、幅8.4cm、厚さ2.0cm、重量173.2g。上下面及び側縁に使用面が確認できる。			
45	石製品 磁石	-	一部欠損。長さ3.9cm、幅1.8cm、厚さ0.8cm、重量6.0g。下面は欠損する。上面及び側縁に使用面が確認できる。			
46	石製品 磨石類	-	一部欠損。長さ7.8cm、幅6.2cm、厚さ2.9cm、重量173.3g。右下側縁及び左側縁に使用面が確認できる。			
47	石製品 軽石製品	-	一部欠損。長さ6.3cm、幅4.1cm、厚さ2.5cm、重量17.3g。顕著な使用痕は確認できないが、側縁が面になる。			
48	鉄製品 鎌	-	ほぼ定形。長さ9.4cm、幅7.6cm、厚さ0.2cm、重量42.0g。意図的に折り曲げられたものと考えられる。			
49	鉄製品 刀子	-	ほぼ定形。長さ13.6cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、重量12.6g。			
50	鉄製品 刀子	-	基部残存。長さ6.8cm、幅0.9cm、厚さ0.4cm、重量7.3g。基部下端に木質が残存する。			
51	鉄製品 刀子	-	一部欠損。長さ7.7cm、幅1.3cm、厚さ0.4cm、重量11.9g。基部に木質が残存する。			

52	鉄製品 刀子	基部残存、長さ8.8cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重量8.3g。
53	鉄製品 刀子	基部残存、長さ5.4cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm、重量6.6。
54	鉄製品 鉄鏝	基部残存、長さ7.5cm、幅0.6cm、厚さ0.3cm、重量4.2。上端は断面形がやや細くなる。

第2号竪穴建物跡

1	土師器 坪	(14.0) (5.2) -	1/2残存。内面へラミガキ。口縁部外面ヨコナデ。外面へラケズリ後少。底部は意図的な穿孔の可能性あり。内面及び口縁部外面黒影。	石英少量、白色粒多量。	外面：5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
2	土師器 坪	(15.0) (3.0) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	礫・石英・白色粒少量。	外面：5YR5/6 内面：7.5YR5/4	良好
3	土師器 坪	(18.0) (2.3) -	口縁部片。内外面へラケズリ。	石英・白色粒多量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/1	良好
4	土師器 坪	- (1.8) 7.5	底部片。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	海綿骨針微量、白色粒少量、石英中量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
5	土師器 高台付坪	- (1.4) (7.0)	底部片。内外面ロクロナデ。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR6/6	良好
6	土師器 甕	22.2 29.0 (10.4)	1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面へラケズリ。底部剥落。内面剥落目立つ。外面上半覆付着。	礫中量、石英・白色粒多量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR5/6	良好
7	土師器 甕	22.8 (11.3) -	口縁部～胴部上半1/3残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面へラケズリ後ナデ。外面上半覆付着。	白色粒微量、礫・石英中量。	外面：5YR5/6 内面：5YR5/6	良好
8	土師器 甕	(20.0) (13.0) -	口縁部～胴部上半1/5残存。内面へラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面へラケズリ。剥落目立つ。	白色粒少量、礫・石英中量。	外面：7.5YR4/4 内面：7.5YR4/4	良好
9	土師器 甕	(21.0) (13.5) -	口縁部～胴部上半1/5残存。内面へラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面へラケズリ。剥落目立つ。	白色粒・礫・石英中量。	外面：2.5YR5/6 内面：10YR5/2	良好
10	土師器 甕	(17.0) (6.5) -	口縁部片。内面へラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面へラケズリ。磨耗している。	礫・石英中量、白色粒多量。	外面：5YR6/6 内面：10YR5/3	良好
11	土師器 甕	(22.0) (4.5) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	白色粒中量、石英少量。	外面：10YR3/1 内面：10YR5/2	良好
12	土師器 甕	- (3.0) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	礫・石英少量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	良好
13	土師器 甕	(2.8) -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。複合口縁。	白色粒・石英少量。	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR6/4	良好
14	土師器 甕	- (3.8) -	胴部片。内面ナデ。外面平行タタキ。	白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
15	須恵器 坏身	(16.0) (4.2) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	石英少量、白色粒中量。	外面：5Y6/1 内面：5Y6/1	良好
16	須恵器 坏身	(14.0) (3.5) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	石英少量、白色粒多量。	外面：5Y4/1 内面：5Y4/1	良好
17	須恵器 坏蓋	(15.0) (1.7) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	精良。	外面：2.5Y7/1 内面：2.5Y7/1	良好
18	土製品 土玉	完形。長さ3.6cm、幅3.4cm、厚さ2.9cm、重量27.7g。ナデにより整形される。			2.5Y7/4	良好
19	石製品 磨石類	一部欠損。長さ11.1cm、幅6.6cm、厚さ5.9cm、重量582.5g。自然礫を殻石として使用している。上端に縦打痕が確認できる。				

第3号竪穴建物跡

1	土師器 坪	(16.0) (4.6) -	口縁部片。内面へラミガキ。口縁部外面ヨコナデ後ミガキ。外面へラケズリ後ミガキ。口唇部一部被熱か。	礫・白色粒微量。	外面：7.5YR7/6 内面：7.5YR7/6	良好
2	土師器 坪	(13.0) (4.5) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。底部手持ちへラケズリ。	白色粒少量。	外面：7.5YR4/3 内面：7.5YR4/3	良好

3	土師器 坏	(16.0) <2.3> -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	石英少量、白色粒中量。	外面：5YR7/6 内面：5YR7/6	良好
4	土師器 坏	(14.0) <3.1> -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	海綿骨針微量、石英少量、白色粒中量。	外面：5YR7/6 内面：5YR7/6	良好
5	土師器 坏	(14.0) <3.4> -	口縁部片。内外面ロクロナデ。内外面赤彩。	石英少量、白色粒中量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR6/6	良好
6	土師器 坏	- <1.3> 7.6	底部残存。内外面ロクロナデ。外面下端回転ヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。	石英・白色粒少量。	外面：5YR6/6 内面：5YR6/6	良好
7	土師器 坏	- <2.0> (8.0)	底部片。内外面ロクロナデ。内外面赤彩。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/2 内面：5YR4/4	良好
8	土師器 鉢	- <1.2> (6.0)	底部片。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	石英少量、白色粒中量。	外面：5YR6/3 内面：5YR6/6	良好
9	土師器 甕	(20.0) <7.0> -	口縁部1/2残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内面煤付着。口縁部外面輪積直残る。	石英少量、白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：5YR6/6	良好
10	土師器 甕	(21.0) <8.2> -	口縁部片。内面ヘラナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。口縁部外面輪積直残る。内外面煤付着。	繊維量、石英・白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：10YR6/4	良好
11	土師器 甕	(14.0) <6.7> -	口縁部へ胴部上半1/4残存。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。内外面煤付着。	繊維量、石英・白色粒中量。	外面：5YR6/6 内面：5YR6/6	良好
12	土師器 甕	(14.0) <5.6> -	口縁部片。内面ナデ。口縁部内外面ヨコナデ。外面ヘラケズリ。	繊維量、石英・白色粒少量。	外面：2.5YR5/6 内面：2.5YR4/2	良好
13	土師器 甕	(20.0) <3.0> -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/6 内面：5YR4/6	良好
14	土師器 甕	- <1.8> -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。内外面煤付着。	石英・白色粒少量。	外面：5YR4/1 内面：5YR6/6	良好
15	土師器 甕	- <2.4> -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	石英・白色粒少量。	外面：7.5YR4/2 内面：7.5YR4/2	良好
16	土師器 甕	- <3.2> -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	雲母中量、繊維量。	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR4/1	良好
17	土師器 甕	- <2.1> -	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。外面輪積直残る。	石英・白色粒微量。	外面：5YR4/8 内面：7.5YR4/3	良好
18	土師器 甕	- <8.3> (8.0)	底部へ胴部下半1/2残存。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	繊維量、白色粒少量、石英中量。	外面：7.5YR6/4 内面：10YR4/1	良好
19	土師器 甕	- <2.5> (10.0)	底部片。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR5/1 内面：10YR6/4	良好
20	土師器 甕	- <3.0> (6.0)	底部片。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ後ナデ。	石英・白色粒少量。	外面：10YR5/3 内面：10YR5/2	良好
21	土師器 甕	- <3.3> (6.0)	底部片。内面ヘラナデ。外面及び底部ヘラケズリ。	繊維量、石英・白色粒少量。	外面：10YR3/2 内面：5YR5/6	良好
22	須恵器 坏身	(14.0) 3.5	1/4残存。内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	繊維少量、白色粒中量。	外面：2.5YR6/2 内面：2.5YR6/2	良好
23	須恵器 坏身	(14.0) 3.3	1/4残存。内外面ロクロナデ。外面下縁手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ後手持ちヘラケズリ。	繊維少量、白色粒中量。	外面：2.5YR6/2 内面：2.5YR6/2	良好
24	須恵器 坏身	(14.0) 3.6	1/5残存。内外面ロクロナデ。底部手持ちヘラケズリ。	石英微量、白色粒少量。	外面：2.5YR6/2 内面：2.5YR6/2	良好
25	須恵器 坏身	(14.0) <3.8> -	口縁部片。内外面ロクロナデ。	石英少量、繊維・白色粒中量。	外面：2.5YR6/1 内面：2.5YR6/1	良好
26	須恵器 坏身	- <4.0> -	体部片。内外面ロクロナデ。	繊維量、石英中量。	外面：2.5YR6/1 内面：2.5YR6/1	良好

27	銅器 環蓋	(14.0) (1.4) -	口縁部片。内外面ロクロナデ。外面上半回転ヘラケズリ。	石英・白色粒 微量。	外面：2.5YR8/1 内面：2.5YR8/1	良好
28	銅器 巻・環箱	- (1.3) (6.0)	底部片。内外面ロクロナデ。外面自然輪付着。	精良。	外面：5Y6/1 内面：2.5YR7/2	良好
29	土製品 支脚	-	欠損。長さ6.8cm、幅4.1cm、厚さ3.7cm、重量86.1g。ナデにより整形される。		7.5YR6/3	不良
30	石製品 砥石	-	完形。長さ5.0cm、幅6.5cm、厚さ3.6cm、重量104.4g。上下面及び側面に顕著な使用痕が認められる。上端は円形の回転運動による凹みが確認できる。穿孔途中の可能性もあるが、棒状の工具を加工した可能性が高い。			
31	石製品 磨石類	-	完形。長さ12.6cm、幅7.6cm、厚さ6.9cm、重量1014.5g。自然礫を礫石として使用している。下端に敲打痕が確認できる。			
32	鉄製品 刀子	-	ほぼ完形。長さ9.5cm、幅1.3cm、厚さ0.3cm、重量7.7g。			
33	鉄製品 刀子	-	基部残存。長さ5.3cm、幅0.6cm、厚さ0.3cm、重量3.9g。			
時期不明						
1	時期不明 土器	- (1.9) -	胴部片。内面ナデ。外面傾位の磨擦文。	石英・白色粒 少量、礫中	外面：7.5YR7/6 内面：10YR6/2	良好



調査区透景（北から）



調査区全景

写真図版 2



調査前現況 (西から)



S11全景 (南西から)



S11遺物出土状況 (北東から)



S11遺物出土状況 (北西から)



S12全景 (南から)



S12遺物出土状況 (東から)



S12遺物出土状況 (東から)



S12遺物出土状況 (南西から)



S13全景



S13カマド全景 (南から)



S13遺物出土状況 (南西から)



P1全景 (西から)



調査風景 1



調査風景 2



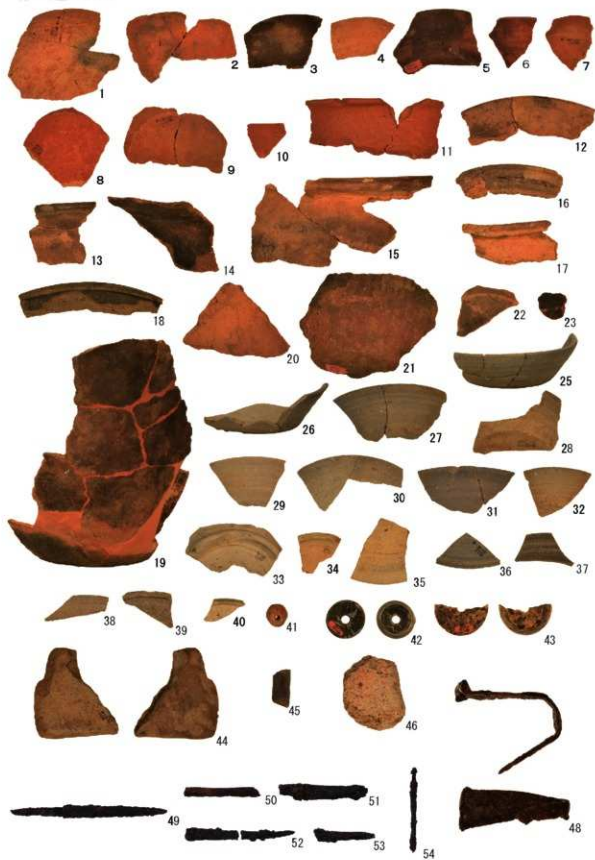
調査風景 3



調査終了 (南から)

写真图版 4

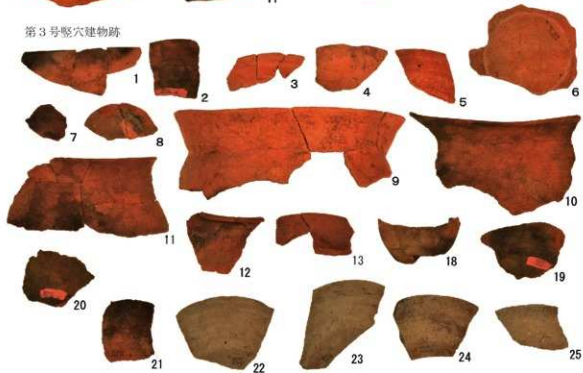
第 1 号竖穴建物跡



第2号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡



写真図版 6



時期不明



報告書抄録

ふりがな	ちばしすなごいせき						
書名	千葉市砂子遺跡						
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	小林 嵩						
編集機関	公益財団法人 千葉市教育振興財団 事務局 埋蔵文化財調査担当						
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 埋蔵文化財調査センター内 TEL：043-266-5433						
発行年月日	2024年3月29日						
ふりがな	ふりがな	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
砂子遺跡	稲毛区作草部町 636-1114	12103	稲毛区 1	北緯 35° 37' 35" 東経 140° 07' 11"	20230724 ~ 20230913	320 m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
砂子遺跡	集落	奈良時代	堅穴建物跡	3軒	土器・土器片・石器類・石器片		
			柱穴	1基			
要約	<p>1 奈良時代 奈良時代後半と考えられる堅穴建物跡が3軒と柱穴が1基検出された。過去の調査成果を踏まえると、砂子遺跡周辺は奈良～平安時代にかけて、比較的大規模な集落が広がると考えられる。</p> <p>2 時期不明 時期不明の土器片が1点出土した。</p>						

千葉市砂子遺跡
—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書—
令和6年3月29日発行

編集・発行 公益財団法人 千葉市教育振興財団
事務局 埋蔵文化財調査担当
〒260-0814
千葉市中央区南生実町1210
埋蔵文化財調査センター内
T E L : 043-266-5433

印 刷 株式会社 正文社
〒260-0001
千葉市中央区都町1-10-6
T E L : 043-233-2235